

大学の世界展開力強化事業 取組概要 名古屋大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプB-I))

修士課程国際共同大学院の創成を目指す先駆的日米協働教育プログラム

【プログラムの目的・養成する人材像】

我が国の工学系修士課程学生に国際的なレベルの高い教育に接する機会を与えて、英語力の増強や研究意欲の向上、世界的な視点からの研究課題の提案力の養成を実現する。また、新たな国際履修モデルの提案により、修業年限、就職活動などに影響を与えることがなく、世界展開力を備えた若手研究者・技術者を育成する。

【構想の概要】

修士課程国際共同大学院の創成を目指し、名古屋大学大学院工学研究科と米国カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)およびミシガン大学大学院工学研究科が国際協働教育を実施する。大学院修士課程の学生交換留学を推進し、日米の両地で同時に実施する国際・学際教育プログラムを構築することにより、国際共同大学院の創成基礎を構築する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

本プログラムでは、日本の「ものづくり」の中心に立地する名古屋大学の特長を活かした魅力ある修士課程国際協働教育を実施する。UCLA及びミシガン大学との緊密な連携により、共同プログラム内の大学間の単位の相互認定を実現すると共に、成績管理、学位授与の共同実施を図る。また、本プログラムの実施を通して日米両方の各研究チーム間の共同研究を促進し、各分野の世界に発信できる先端研究拠点形成する。

○ 短期(夏季)交流コース(2ヶ月~3ヶ月)

派遣: J1ビザを取得し訪問研究者としてアメリカの大学に滞在し、研究インターンシップを行う。名古屋大学から4単位を付与する。

受入: アメリカの大学院生を受け入れ、研究インターンシップ、関連授業の聴講、自動車工場見学等を行う。相互認定可能な3単位を付与する。

○ 中長期交流コース(6ヶ月~12ヶ月)

派遣: UCLA、ミシガン大学に学生を派遣し、論文等成果発表につながる本格的な研究を行う。共同施設の利用など米国の特色ある充実した教育支援を受ける。名古屋大学から4単位を付与する。

受入: 名古屋大教員による研究指導、研究施設の共同利用など、名古屋大学の特色ある充実した研究支援を受ける。相互認定可能な3単位を付与する。

〈UCLAに派遣された名古屋大学大学院生の研究室での様子〉



〈名古屋大学で小型エンジンの分解・組立実習を行うアメリカの大学院生〉



■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

○ 平成25年度

派遣: 夏季休暇中に16名の大学院工学研究科学生を2ヶ月間ミシガン大学・UCLAに派遣し、名大での研究に関連する研究インターンシップを行った。また、前年度からの派遣学生と本年度から派遣された学生合わせて合計10名を中長期コースで派遣した。

受入: ミシガン大学・UCLAから18名の学生を2ヶ月間受け入れ、研究インターンシップ、自動車工学および生産工学に関連する講義の聴講、小型エンジンの分解・組立実習を行った。

ワークショップ: 学生交流促進とプログラム発展・大学連携強化のために、学生ワークショップをミシガン大学とUCLAで行った(名大生34名、米国教員、学生約100名がそれぞれの大学で参加)。また教員ワークショップを名古屋大学で開催した(ミシガン大教員6名、名大教員・学生約50人が参加)。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣: 5年間の交流コース及び定期ワークショップを通じて、計200名程度の名古屋大学大学院工学研究科学生を派遣する。

○ 外国人留学生の受入れ: 短期交流コースを中心として、計70名程度の学生を受け入れる。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	37	50	51	32	22
学生の受入	0	10	18	17	37

注) H23-H25は実績、H26以降は計画。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 派遣: 派遣学生が学業に専念できるように、受入大学でコーディネータ教員から支援を受ける。日本で事前に英語指導による語学力強化を図る。

○ 受入: 指導教員の配置、TA等の配置、学内外での諸手続き支援、カウンセリング、宿舍の借り上げ、日本語授業などを通して支援する。

■ 教育内容の可視化・成果の普及

○ プログラムの成果の公開

学生交流、セミナーなどのプログラム活動状況を随時ホームページで公開し、ウェブアクセスできるようにする。HP: <http://www.juacep.engg.nagoya-u.ac.jp>

〈ミシガン大学に滞在中の名古屋大学生と前年度本プログラムで来学したミシガン大学生による懇親会〉

